



幕末維新書留  
 慶應三年二月至十月

服部文庫  
 イ 17  
 2189  
 41





特  
117  
2189  
421

丁卯

十月後于役身不記

- 一 小倉和長
- 一 原監察被殺
- 一 五卿以詔被免
- 一 兵庫開港
- 一 山城國一國重賦
- 一 仰政權中車歸

2-10  
服部文庫  
X17  
1781  
30160











右在船中

一者素の表也此言計策也其法乃其一人也若夫其力也

十二月十九日

一慶公欲為事則以此人為其要也且出四川也其一人也其表  
行其表一防我之上人則歸川也其表日復入之其表日復入之其表  
防而事也其表

右為素の表也其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表  
十二月十九日

一十二月日於春長人表素の表也其表日復入之其表日復入之其表  
省者計下流也其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表

信云其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表  
其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表  
其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表

之表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表  
其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表  
其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表

我云是也其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表  
得止也其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表  
其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表

彼云我深也其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表  
其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表  
其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表日復入之其表



































修治寺殿及掛愧彌至至寺塔寺臣子不得止之惟其為  
而寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺  
寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

二月

毛利大膳  
家元中

一京報 七月

六月十日新撰以下 江原正格武在通

又江原正格 隊長 長友 勇 又江原正格 副隊長 茂木 日

口江正 副隊長 土方 常三 村上 清

又江原正格 副隊長 沖田 德司 長倉 新八 古村 寬下

原田 左介 大石 幸次郎

井上 新三郎 安藤 昌計

山崎 謙 佐藤 周平

諸方 佐吉

聖德太子 己巳 他 子 他 只 在 今 日 也

卯台月



右の如く江前必百中其備并結令交格式と交名は是  
と御意に依りて同日午下在り今統局

後未日

中村 少中

三田 友見

依りて五三介

木崎 緒之

松平 信之丞

中井 三保

言理 三右衛門

高川 十中

松平 三右衛門

十三日方申、今度、江前必百中其備并結令交格式と交名は是  
と御意に依りて同日午下在り今統局

此は新儀先達事也

王様美事お名報國志意に度一途言申困之候事是  
と御意に依りて同日午下在り今統局

難に感佩仕候事寸印七年正月新儀に依りて此儀も交  
付之何世也指し玉持御一念に御意徹不仕候事也今  
更に格式取致し未申事而目二平之勤仕候事也  
道徳に難仕候事也又御意に依りて此儀も交  
長下右御意に依りて此儀も交

卯六月

右の如く江前必百中其備并結令交格式と交名は是  
と御意に依りて同日午下在り今統局

右の如く江前必百中其備并結令交格式と交名は是  
と御意に依りて同日午下在り今統局







後隊政勅諭の旨を奉りて  
當ノ旨に依りて  
一六日付 右隊所より

右隊所より

比向中侍  
今并に  
お并れ

右隊政勅諭の旨を奉りて

山中  
度々  
共同

右隊政勅諭の旨を奉りて  
不承  
不承

右隊所より

右隊政勅諭の旨を奉りて  
不承  
不承

右隊政勅諭の旨を奉りて

比向中侍  
今并に  
お并れ  
山中  
度々  
共同







多端之在時古也方勢係立位於力之有也 官務之有

一六日十九日 咸康年人西子 公名古守內之有而之有方

一六日十九日 咸康年人西子 公名古守內之有而之有方

一六日十九日 咸康年人西子 公名古守內之有而之有方

私事之有亦如今之有而之有以及今之有伏見諸公四系仕守儀  
婿也印之上表大守律守八日也

一六日十九日 咸康年人西子 公名古守內之有而之有方

臣居而中使係者方之有而之有上系在委也之有也之有果  
精如係用少之快也之有也之有也之有也之有也之有也之有也  
一侯以之有也之有也之有也之有也之有也之有也之有也之有也

水戶殿

大膳王

鈴木隆敏

古方人以附屬之人負上之有也 古方人以附屬之人負上之有也  
分之內有也之有也之有也之有也之有也之有也之有也之有也  
一六日十九日 咸康年人西子 公名古守內之有而之有方

一六日十九日 咸康年人西子 公名古守內之有而之有方

長防之有也之有也之有也之有也之有也之有也之有也之有也  
清之有也之有也之有也之有也之有也之有也之有也之有也  
一六日十九日 咸康年人西子 公名古守內之有而之有方  
此之有也之有也之有也之有也之有也之有也之有也之有也  
一六日十九日 咸康年人西子 公名古守內之有而之有方







りいん威者多夫大志は成程路下り也言下り也言下り也言  
り故位格を保るは厚を言下り也言下り也言下り也言  
表すもいん威者多夫大志は成程路下り也言

いん威者多夫大志

島津中将

日下言付し事下り也言

島津大將

依り言下り也言保るは厚を言下り也言下り也言下り也言  
道下り也言下り也言下り也言下り也言下り也言下り也言

一八月十七

日野大將

柳本大將

飛鳥井中將

長谷川大將

長谷川大將

一平大將

坊間大將

右下言付し事下り也言

一八月十七

板倉大將

板倉大將

石川大將

石川大將

山内大將

山内大將

一八月十七

山内大將

山内大將

山内大將

山内大將

山内大將



四篇言上... 歸者... 可通受... 大物亦... 之海...

一... 草莽... 臣... 年... 防... 民... 之防... 其... 上... 宣... 大... 行... 考... 同... 之... 中... 也... 是... 以... 報... 之... 方... 一... 致... 年... 控... 撫...

五... 或... 之... 之... 之... 沈... 中... 味... 物... 常... 先... 一... 之... 心... 生... 滿... 之... 也... 其... 亦... 不... 同... 于... 人... 心... 之... 際... 良...











幕府抄

御手紙  
御書  
御返  
御手紙  
御書

報國微衷

逆賊此輩の如きは天下に少くも此輩 先帝の神靈を附  
君家の辱と云ふ人との如き者も万が一に此輩を以て  
同心戮力して少くも威嚇ののち之を宗報國の微衷也此輩  
評と云ふ事と我の後を以て法を清く  
原代正統乃務使の國を海原孫常山位自加意の如く  
為大なるを以て少くも自らの心を以て之を宗報國の  
心腹の如く之を以て之を宗報國の心腹の如く  
一 原代正統乃務使の國を海原孫常山位自加意の如く

一 古く統三針

一 古く統三針

原代正統乃務使の國を海原孫常山位自加意の如く  
為大なるを以て少くも自らの心を以て之を宗報國の  
心腹の如く之を以て之を宗報國の心腹の如く

一 原代正統乃務使の國を海原孫常山位自加意の如く  
為大なるを以て少くも自らの心を以て之を宗報國の  
心腹の如く之を以て之を宗報國の心腹の如く

一 原代正統乃務使の國を海原孫常山位自加意の如く  
為大なるを以て少くも自らの心を以て之を宗報國の  
心腹の如く之を以て之を宗報國の心腹の如く

一 京本

京本 原代正統乃務使の國を海原孫常山位自加意の如く  
為大なるを以て少くも自らの心を以て之を宗報國の  
心腹の如く之を以て之を宗報國の心腹の如く



尸湯何時是若友之痛... 此後... 尾... 當又... 七月廿六日

内徳向山... 此後... 七月廿六日







一 伯方山天... 事

一 薩州... 事

當及... 事

就... 事

中... 事

一 八月廿六日... 事

准... 事

法... 事

一... 事

本... 事

之... 事

今... 事

傳... 事



一京報 二月十五日發

一佛船去正月十五日入津何處之船有...

一西報云二月五日...

一西報云二月五日...

一西報云二月五日...

一先帝即昇遐正月廿七日...

一薩摩子先君...

一諸事...

一諸事...

一諸事...

一諸事...

一諸事...

今日十日







佛言 松室伊葛 中日子 三浦治吉

表向訪书、其書中、角内、内、人、曾、助、り、と、云、ふ、以上中津書  
二月、男、少、金、滿、入、仁、宗、元、年、有、子、金、宗、日、辰、之、年、然、之、由、  
右、人、出、一、時、方、不、得、折、以、後、在、河、邊、傳、言、之、事、因、之、不、  
言、之、所、也、

一佛國公使書 城之旨手續 日記

一河内新令 日記

一法口咎印文

有松川神宮  
中山大城言

古是是 思言是之止系 朝他人而會立院至下子所也  
就些答 所出筆檢列心巾情恐出信 似付右後望並改心

三三三事

橋中中願言  
訪僧古前少并

右河又言 右後望國改心之之月令中書和勅為多和事

聖園大和口

西報所少和

橋中少和

烏丸信信

古是是 早言是之是和之 似對立院至下子所也 三三三事

流世中將

古是是 早言是之是和之 似對立院至下子所也 三三三事  
右孫政殿之布事



一五 師中既作免行運

二月廿五日

松平貞隆書  
細川越中書  
吉野中務方福  
松平信理書  
松平信之書

為是時部令多事之二部軍兵始此後亦既... 相與... 尤重也... 但所屬之... 大板...

一六 樹中下坂牙高傳書

此書中... 大樹公下坂... 師中... 既... 大板...

洪武... 師中... 既... 大板...

二月廿九日

一七 師中下坂牙高傳書

一... 師中... 既... 大板...

二月廿九日

二月廿九日... 師中... 既... 大板...















杉平因幡守

為之上... 杉平因幡守... 三月十日... 以上...

二月

杉平因幡守

三月十日... 以上...

紀伊中洲守  
徳川元次代

三月十日... 以上...  
二月十九日

印封書之由

先達條約... 仰出... 二月

一 伊國公使出 城之次第 二月十日

一 諸佐の... 二月十日

一 伊國... 以上...

一 公使... 以上...







一内閣圖書

卯三月廿五日

上極分各庫港之係所 奏圖書

一戊子十月中東約 勅許之儀各庫に上旨言所沙法之趣子  
 未印國人之可下後之季在るに思尾結及以折角平穩之  
 趣云々水滄に右悔且一旦取結東約在るを係に只今信を  
 其國に朱多を云々可後之儀無其以源心祝中云々  
 一時切迄之儀徳師諒察之と條約 勅許の旨後又  
 條約に上旨料酌に仕所先之儀所交上之旨云々熱  
 考に上旨をわく折角長防之事件現に引續故折角未故  
 及以之趣に開港期限差而下各國に毎上之條約も云々  
 能事又再之趣意勘弁に上旨云々東約変更之儀港に  
 施行中に必之義理由直之條及以大に不都合在るに諸万民  
 生業に後之趣意云々苦し之 皇國に所信沈るに折角の如し











同日九日官印奉 内者...

一 四月所國事掛勘者内

有物川去 山階宮 二系殿 色橋殿 三系殿

九系殿 應日太極之殿 前...

國事掛勘者上...

五系殿 内...

一 官印之印係 奉符...

一 奉符者一人即座...

一 奉符者上懸所...

一 奉符者下中...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...

跡由一其上...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...

一 奉符者...



















































内九万五千石俵

甲辰下

残米七万五千石

古交在元亨元年六月十四日

胡廷下

是年三月十五日俵有八千石

中取三少海國一國有八千石

之由未日所估

一服后世子折

是後海軍

以俵五

一服后國出の上

一四萬石

多分

一内各同書

外八月十二日

一平年正月廿五日

一併國川

一併國川

一併國川

一併國川

一併國川

一併國川

一併國川

一併國川

一併國川

一併國川

一併國川







石州引之其要子以形飛も南水凡五五六十方在西北のりて千石  
うろろ木板圃也事も一此等長多代も所取上其事子中へ結  
依ハク之形も千定切作し且入口もろろ一防也等之交易成所  
人由張りてちり所

一 倉庫と神戸村街及海子東生田川に千石程東、西、計千  
村内古川と京溝沿、海岸千石程の町海子存ふる小街に  
湯と水之所千石程、其人居多代ちり所、方今海子千石程  
と其事、一、一、其等取ハ一万坪と云、其内山所併ハ不  
直也千石程、一、一、其等陸城前河州里に倉庫二、一、系  
尾村神戸へ去、其等色も出、其等色も、一、一、  
一 朝廷方 其等色も、一、一、  
倉庫開港も、其等色も、一、一、  
書地世り、其等色も、一、一、

不交行海公武之取、一、一、  
但和宗の國也、一、一、

別紙

一 倉庫開港も、其等色も、一、一、  
測と源と、一、一、  
中其色も、一、一、  
之徳向者、一、一、  
然、一、一、  
一 政、一、一、

一 倉庫開港も、其等色も、一、一、  
且其色も、一、一、  
之入り、一、一、



但此法信能利也

一長防之論以秋葉年書之日其の意蓋謂此分國許に在る由  
又此許に在る種々種々之を急ぐ上は之の意に成るる風俗  
且之を治る事と云世に飛ぶるに及ばず中々之を治る  
難しむるに之を治る事と云世に飛ぶるに及ばず中々之を治る  
乃こそ首領之を治る事と云世に飛ぶるに及ばず中々之を治る  
風俗之を治る事と云世に飛ぶるに及ばず中々之を治る  
中々之を治る事と云世に飛ぶるに及ばず中々之を治る

七日

七年

長防之論以秋葉年書之日其の意蓋謂此分國許に在る由  
又此許に在る種々種々之を急ぐ上は之の意に成るる風俗  
且之を治る事と云世に飛ぶるに及ばず中々之を治る  
難しむるに之を治る事と云世に飛ぶるに及ばず中々之を治る  
乃こそ首領之を治る事と云世に飛ぶるに及ばず中々之を治る  
風俗之を治る事と云世に飛ぶるに及ばず中々之を治る  
中々之を治る事と云世に飛ぶるに及ばず中々之を治る

一先是越後守平四郎述白と東別紙と通信 朝庭書局  
行ふ

八月廿日付書下四番(守平) 但越後守平は古傳に  
多事件治之見之遅速其同と云々 増大御前大御前  
仰書之其意を控候に大御前御書之了知由之旨書御  
書付之候事

八月廿日付書下四番(守平) 但越後守平は古傳に  
多事件治之見之遅速其同と云々 増大御前大御前  
仰書之其意を控候に大御前御書之了知由之旨書御  
書付之候事 仰書之其意を控候に大御前御書之了知由之旨書御  
書付之候事 仰書之其意を控候に大御前御書之了知由之旨書御  
書付之候事



























一 和國之事

古高月尾及上業公海軍福上以迄定少少自生先命  
一 和國之事

一 同日 天孫公法事

今之世事より件の如く申す事と与以て為差度と云ふ事

一 和國之事より申す事と云ふ事と云ふ事

一 天孫公おとあまの事

自心と云ふ事と法度上事と云ふ事

供与と云ふ事と云ふ事

一 和國之事 大相公

今之世事より上と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
一 和國之事より申す事と云ふ事  
一 和國之事より申す事と云ふ事

一 和國之事

和名

一 和國之事より申す事と云ふ事

臣度長 以秋相續中長將軍威の所國は許也一並に

厚長 和國之事より申す事と云ふ事

奉國より申す事と云ふ事

和名

諸侯上事と云ふ事

和國之事

一 和國之事より申す事と云ふ事

一 和國之事より申す事と云ふ事

諸事より申す事と云ふ事

和國之事より申す事と云ふ事



慶勝久矣親屬之立相宜之事不可偏也  
之為臣誠以惟懼我懷之至不佞臣等  
是之也林列之  
何子中降等  
亦不愛幸何兼臣等亦誠於此也  
十月

慶勝







